

2019年度に実施したプロジェクト評価結果のまとめ

2019年度に実施した、プロジェクト中間評価全9件及びプロジェクト事後評価全11件について、評点はそれぞれ以下の通り。

1. 中間評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト	ロボ	2.7	2.3	2.0	1.7
2	超低消費電力型光エレクトロニクス実装システム技術開発	IoT	2.9	2.9	2.9	2.0
3	次世代自動車向け高効率モーター用磁性材料技術開発	材料ナノ	3.0	2.5	2.2	1.8
4	有機ケイ素機能性化学品製造プロセス技術開発	材料ナノ	3.0	2.4	2.9	2.3
5	二酸化炭素原料化基幹化学品製造プロセス技術開発	材料ナノ	3.0	2.9	2.7	2.9
6	高温超電導実用化促進技術開発	省エネ	2.8	2.3	2.7	1.8
7	高効率な資源循環システムを構築するためのリサイクル技術の研究開発事業	環境	3.0	2.5	2.5	2.2
8	次世代火力発電等技術開発／次世代技術の早期実用化に向けた信頼性向上技術開発	環境	2.7	2.4	2.4	1.7
9	次世代火力発電等技術開発／〔4〕次世代火力発電基盤技術開発 2) 3) 4)	環境	2.6	2.6	2.6	2.1

2. 事後評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	インフラ維持管理・更新等の社会課題対応システム開発プロジェクト	ロボ	3.0	2.7	2.7	2.8
2	次世代プリントエレクトロニクス材料・プロセス基盤技術開発	IoT	2.7	2.5	2.7	1.8
3	次世代型産業用 3D プリンタの造形技術開発・実用化事業	IoT	3.0	2.5	2.2	2.5
4	IoT を活用した新産業モデル創出基盤整備事業	IoT	2.7	1.7	1.9	1.9
5	太陽光発電システム効率向上・維持管理技術開発プロジェクト	新エネ	3.0	2.1	2.1	1.7
6	太陽光発電リサイクル技術開発プロジェクト	新エネ	2.9	2.3	2.7	2.3
7	再生可能エネルギー熱利用技術開発	新エネ	3.0	2.3	2.1	1.6
8	※固体酸化物形燃料電池等実用化推進技術開発	電水	3.0	2.9	2.6	1.9
9	※固体高分子形燃料電池利用高度化技術開発事業	電水	3.0	1.9	2.6	2.0
10	電力系統出力変動対応技術研究開発事業	スマコミ	3.0	2.0	2.3	1.7
11	分散型エネルギー次世代電力網構築実証事業	スマコミ	2.7	2.1	2.1	2.1

注：赤字 8 件については、今回の第 61 回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

※：前倒し事後評価

第4期中長期計画における評価指標について

(参考)

○第4期 事後評価結果

70%以上 (マネジメント、成果 \geq 2点 (3点満点))

50%以上 (実用化 \geq 2点 (3点満点))

第4期中長期計画 抜粋

I. 研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項

第4期中長期目標期間においては、研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上のため、以下のとおり、1. から4. の業務項目毎に取組を行うものとする。

また、機構の業務活動単位を①エネルギーシステム分野、②省エネルギー・環境分野、③産業技術分野、④新産業創出・シーズ発掘等分野とし、これらの分類ごとに組織上の責任者を配置して業務を実施する。(中略)

1. 技術開発マネジメント等による研究成果の社会実装の推進

(1) 世界最先端の研究開発プロジェクトの実施と成果の最大化

○数値目標 1. - 1

【目標】「基幹目標」

(中略) 事業終了後、5年が経過していないナショナルプロジェクト(非連続ナショナルプロジェクトを除く。)については、事業終了後に実施する外部評価委員会による事後評価における「成果の実用化・事業化に向けた取組及び見通し」の評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分となる比率を第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも50%以上(平成23年度以前に終了したナショナルプロジェクト243件の実績は41%)とすることを目標として、成果の実用化に向けたマネジメントに、より一層取り組むものとし、当該比率を基に実用化達成率の将来予測を行うものとする。

(2) 技術開発マネジメントの機能強化

○数値目標 1. - 2

【目標】

(中略) 第4期は、マネジメント結果を直接的に測定できる「研究開発マネジメント」及び「研究開発成果」の評価項目に特化することとし、同評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分の評価を得る比率について、第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも70%以上(平成28年度までに事後評価を完了したナショナルプロジェクト358件の実績値は68%)とすることを目標とし、その達成状況を評価する。